

日本初！有機JAS認定のバラ生産 ～本物の「香り」を届けるために～

弥富市 山田 勝 さん(ベルバラ園)
施設花き (バラ)

【平成 25 年 1 月 17 日掲載】

弥富市で有機栽培によるバラ生産を行うベルバラ園の山田勝さんを紹介します。山田さんは、自然に近い環境で栽培を行うことでバラ本来の「香り」を追求しています。平成 24 年 6 月には、バラでは国内初となる有機農産物 J A S (以下、有機 JAS) の認定を受けました。

0 (ゼロ)からのバラ栽培

山田さんは、水田を所有する兼業農家に育ち、自宅から近いという理由で農業高校に進学します。そして、卒業後の進路に悩んでいた高校 3 年時に、たまたま校内で開かれた就農相談会に参加しました。サラリーマンになる自分が想像できなかった山田さんは、相談員をしていた農業改良普及員(現 普及指導員)の話を聞くうちに農業に魅力を感じ、就農を決意したそうです。

当時から海部地域の農業は稲作が中心でしたが、他の人と一緒では面白くないと栽培品目をバラに決定します。品質にこだわる蒲郡のバラ生産者のもとで 2 年間研修を積み、昭和 52 年にベルバラ園を開園します。ガラス温室の建設には制度資金を利用し、不足分は両親が支援してくれたそうです。親の支援があったから今があると山田さんは語ります。



ベルバラ園の山田 勝さん、さゆりさん夫妻

「香り」の追及

270 坪の温室で始まったベルバラ園ですが、「貯まった資金は、すぐに投資」との研修先の教えもあり、翌年には 200 坪のハウスを増設し、順調に経営規模を拡大していきます。景気が良く花が最も売れた時代、経営は順調でした。

バブル崩壊後、花の生産者は転機を迎えます。バラの単価が下がっていく中、他の生産者との差別化を図ろうと 10 年ほど前から「香りに特徴があるバラ」の生産を始めます。きっかけは、アパート住まいの知人の言葉でした。「もらったバラを家に飾り、出かけて、家に帰ってきたら、部屋中がバラの香りで包まれていて癒された」。「バラの香りで癒しを提供したい」山田さんの「香り」の追求が始まります。

品種選定の基準を「香り」に据え、品種更新を図っていきます。さらに、「バラ本来の香りを届けたい」との思いから、自然に近い環境での栽培を極めていくこととなります。



特徴的な香りの
「パープルフラガンシア」

有機 JAS の認定取得

平成 14 年頃から化学農薬を減らした栽培を始め、平成 18 年に愛知県のエコファーマーに認定されます。さらに、平成 19 年には MPS-ABC 認証を受けて環境負荷低減の取り組みを進めていきます。その背景には、身近で起こっていた農薬事故を憂慮する気持ちや、女性や後継者が安心して農業に参入できる環境を整備したいとの思いがありました。



軌道に乗り始めた有機栽培のバラほ場



花き部門では、日本初の有機農産物 JAS 認定証

平成 21 年、有機 JAS 認証の取得へ向けて、化学肥料および有機 JAS 認証の対象外である化学農薬の使用を完全にストップします。

バラ生産での病虫害防除がどんなに大変であるかは関係者なら誰もが知るところです。初年度は出荷できるバラがほとんどない状態で、病虫害跡があるバラに対して関係者から厳しい評価を受けます。あまりの経営難に家族からも反対されたそうです。それでも、取り組みを続けた結果、2 年目以降は徐々に害虫や病害が大発生することがなくなり、現在では、有機 JAS 規格で使用可能な資材を有効に使い、許容可能な程度まで被害をコントロールできるようになりました。そして、平成 24 年 6 月 20 日、花き部門では国内初となる有機 JAS の認定を受けました。

オリジナル商品の開発

有機 JAS に認定されたことにより、関係者の評価が一気に変わり、ベルバラ園の取組は県内外に知れ渡ることとなりました。特に飲食業や食品業界の注目度は高く、ローズジャム、シロップ、ドレッシングなど多くの加工品が商品化に向けて動き出しています。

その第一段として、平成 24 年 12 月に、国内大手ワイナリーの協力を得て完成したオーガニックローズワインの販売が始まりました。

山田さんの周りには、その夢に共感し、賛同する多くの協力者が集まっていて、各種企画やコーディネートという形でバックアップしてくれています。ベルバラ園のオーガニックローズと関係者が一体となって、今後さらに新たな価値が生み出されていくのかもしれません。



試作中のジャム (左上)、シロップ (左下)、販売中のオリジナルローズワイン「Taste of Organic Rose」(右)

執筆：農業経営課

取材協力：海部農林水産事務所農業改良普及課